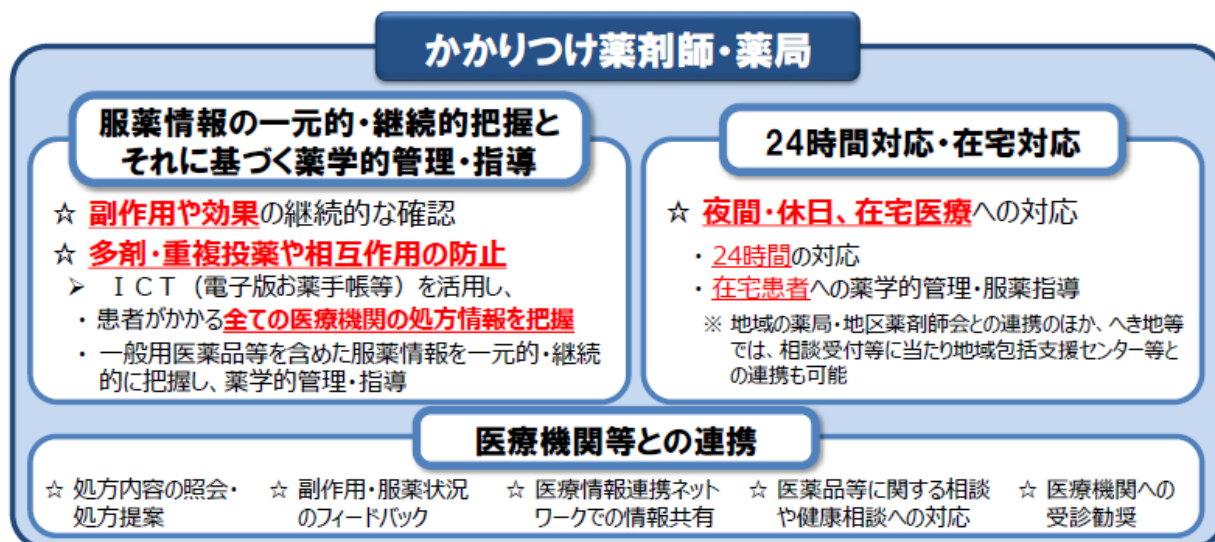


「薬剤師需要状況調査」の実施結果について

薬事管理課

1 背景

- (1) 「かかりつけ薬剤師・薬局」を推進するにあたり、薬剤師の人材確保が急務
- (2) 資格保有者の約6割が女性のため、結婚・出産による未就業状態のケースが多い
- (3) 県内に薬学部がない長野県では、薬剤師の資格を取得して県外に就職する者が多いといわれている



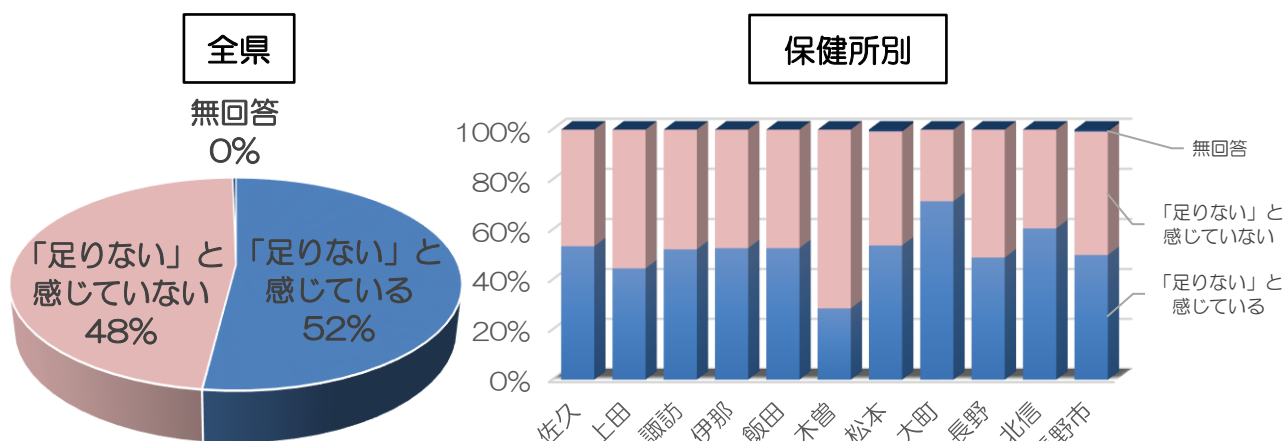
2 実施方法

- (1) 対象薬局：県内の全薬局（R1.6時点 **985**件）
- (2) 調査項目：薬剤師不足人数・不足理由・薬局をめぐる課題等
- (3) 調査方法：電子メール、ファクシミリまたは郵送により調査票を送付、回収

3 実施結果（抜粋）

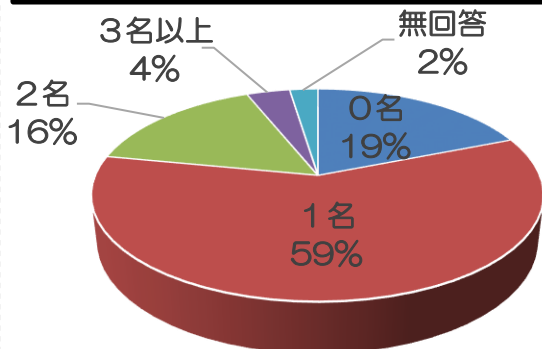
回答薬局数：**706**件（回収率：**71.7%**）

Q. 日頃の調剤業務等を行う中で「薬剤師が足りない」と感じていますか。

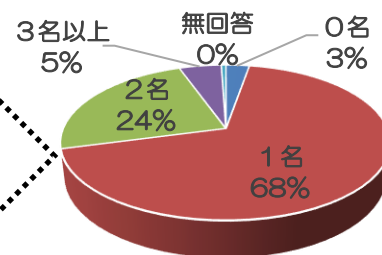


Q. 在宅患者への薬学的管理・服薬指導などの「かかりつけ薬剤師・薬局」の機能を充実させるためには、貴薬局にあと何名の薬剤師が必要だと考えていますか。

※ 常勤換算



「薬剤師が足りない」と感じている薬局に限ると



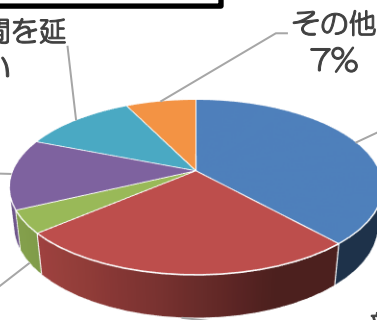
回答率を勘案して単純計算すると、県全体で約 **1,000名** 足りていない
(回答薬局の不足総数 729名 ÷ 回収率 71.7% ≒ 1,017名)

Q. あなたの薬局に勤務する薬剤師を十分に確保するために、障壁となっていることは何ですか。

育児・介護などのために、勤務時間を延長できないパート薬剤師が多い
12%

調剤スペースなど、薬局の構造設備が手狭である
13%

採用しても、すぐにやめてしまう
4%



求人していても応募してくる薬剤師が少ない(いない)
38%

新たな薬剤師を雇用する経済的な余裕がない
26%

4 総評

- (1) どの地域においても「かかりつけ薬剤師・薬局」の機能を充実させるためには**薬剤師が不足している**現状が明確となった。
- (2) 薬剤師確保のために障壁となっている理由としては「**求人していても応募してくる薬剤師が少ない(いない)**」との回答が最も多かった。

今後の対策

★『**薬剤師復職・就業支援事業**』（事業主体：長野県薬剤師会）の拡充
(未就業薬剤師の発掘・新卒薬剤師の確保)

★**関係団体と連携した薬局薬剤師のスキルアップ研修の実施**
(現状の薬局薬剤師による「かかりつけ薬剤師・薬局」の機能強化)

<参考> 全国の薬剤師需要供給状況予測

2018年度の厚生労働省研究班の研究報告※によると、「薬剤師の総数としては、今後数年間は需要と供給が均衡している状況が続くが、長期的には供給が需要を上回ることが見込まれる」としており、2043年(25年後)には全国で約8,000人の薬剤師が余剰となると推計している。

※ 2018年度 厚生労働科学研究成果(分担研究者:長谷川 洋一・名城大学薬学部教授)
「薬剤師の需給動向の予測および薬剤師の専門性確保に必要な研修内容等に関する研究」